

## 鹿沼市新庁舎整備市民会議 第3回会議 議事録

日 時：平成30年 2月20日（火）13時30分～15時10分

場 所：北押原コミュニティセンター 会議室1

出席者：鹿沼市新庁舎整備市民会議委員

委 員 長：三橋伸夫

副委員長：鈴木節也

委 員：山菅昭八、木村剛考、井戸道廣、宇賀神正雄、柴山淳、渡辺保、石川大悟、  
小島正男、葉山廣、岩瀬昭子、吉村アヤ子、永田由美子、松島良子、風間教司、  
石澤久子、大出ヨシ、石川昭男、松山裕

（欠席者：吉澤辰治、福田七右衛門、大塚美津子、山崎晴美、清水浄、藤田雄一、  
徳原英晴、市議会議員）

事 務 局：水嶋財務部長、篠原庁舎整備推進室長、黒川主査、井上主事

（株）佐藤総合計画：八木執行役員、渥美プロジェクトリーダー、土井主任

### 議事内容

#### 1. 開 会

- ・事務局による開会
- ・「鹿沼市審議会等の会議の公開に関する要綱」に基づく、会議の公開について説明
- ・出席状況により過半数を確認し、委員会成立を報告

#### 2. 委員長あいさつ

- ・委員の皆さんとは半年以上ぶりである。
- ・この間に基本設計を行う業者が決定した。
- ・今回は、まずその業者が決定するまでの経過について報告がある。
- ・その後、どのような提案が選ばれたのか、設計業者によるプレゼンテーションがある。
- ・折角の機会であるため、委員の皆さまには忌憚のないご意見を頂戴したい。
- ・そして、今後の進め方について説明がある。
- ・今日は講義形式の配置であり、委員同士の意見交換は難しいかもしれないが、貴重な機会なのでぜひご活用いただきたい。

#### 3. 議 事

##### （1）新庁舎整備基本設計業者の決定について（経過）

（事務局より説明）・・・『資料1』

- ・基本設計業者決定経過を説明について説明

（意見交換）

⇒特になし。

(2) 基本設計業者による特定技術提案書内容のプレゼンテーション

(事務局より説明)

・(株)佐藤総合計画を紹介

(株)佐藤総合計画より説明)・・・『資料2』

・技術提案書内容のプレゼンテーション

(意見交換)

委員長：事務局の説明にもあったが、あくまで提案であり、決定ではない。今後、委員の皆さま等の意見を踏まえて、実際に決定していくことになる。

委員：現庁舎にはエレベーターが1基しかない。交流棟と行政棟について、それぞれ何基設置されるのか？また、フロアが広いが、耐震面は問題ないのか。

佐藤総合計画：現在のエレベーターは新館に1基あるが、広く使うには邪魔な場所にある。そのため、全体を改修する前に、まず議会棟の近くに移設してしまう。この工事は構造的には難しくない。また、メインのエレベーターは行政棟の入口付近に2台配置する予定である。経験上、5階建てであれば、2台で十分であると考えている。

また、耐震面については、交流棟が古い建物、行政棟が新しい建物となるため、地震に対する強さが違ってしまふ。そのため、地震が起きると別々の動きをしてしまふが、間にエクステンションジョイントを挟み、動きを吸収することで、建物同士がぶつからないようにする。それぞれの建物についても、交流棟は耐震改修、行政棟は新築により、耐震性能を確保する。

委員：(株)佐藤総合計画は世田谷区の庁舎を手掛けるなど、とても実力のある設計事務所が、プロポーザルで選ばれ、安心している。3点ほどお伺いしたい。まず、行政棟は市民サービスや福祉、子育てについての面積を1階の同フロアで全て確保できるのか。次に、行政棟と交流棟の階高が違うことについて伺いたい。現新館は駐車場から1m20～30cm高くなっているが、パースでは行政棟の1階が4m50～60cmあるように見える。古い建物に階高を合わせることになり、デザイン的にも荷重が増えそうである。総合的に考えても、プロポーザルの前提条件ではあったが、新館を残した方が果たして良いのか。説明では新館改修を後から行っても仮庁舎は不要とのことなので、それならば全体的に一体化してしまい、古い建物に高いコストをかけて先に壊してしまうのではなく、全て新築としてはどうか。そうすると、各階において理想的な、安定的した性能を発揮できる建物になると思う。

次に、駐車場がまだ足りないのではないかと。敷地内外で160台以上確保できるとのことだが、公用車も含めると実際何台必要になるのか。また、駐車スペースも狭いため、子育て世代のワンボックスカーは苦慮して駐車している。もう少し台数を増やすのか、1台当たりの駐車スペースの面積について、どのように考えているのかお伺いしたい。

佐藤総合計画：まず、市民が直接利用するスペースについてだが、1階窓口は総合窓口とし、基本計画では窓口部門は2フロアに分けて配置するとされており、それに倣って1階に配置するとされた部署は全て1階に配置できている。議会関係は議会棟に全て配置されている。一見すると狭そうに見えるが、窓口関係は書類や相談室が必要となるため、他の部署より面積が

必要となっている。すぐ使う相談室は行政棟の奥に集約し、日常的に作業するスペースは執務スペースの背面に確保した上で、基本計画に示された設定を実現できている。

階高については、ご指摘のとおり、新館の方が低くなっており、3m75cmである。さらに1階が地面より高くなっている。この課題について、順に説明する。まず、新庁舎と新館の階高があっていないと使いづらくなってしまふ。一般的な庁舎の階高は4m前後であり、最近ではコストを抑えるために、3m80~90cmが増えてきている。どうやって低い階高で天井高を確保するかというと、梁を細かく入れることで梁の高さを抑え、床板と一体化させてしまふ。空調等のダクトは二重床の中に収容することで、現在の提案で天井高を2m70~80cm実現できる。東日本大震災以降、公共建築では天井を貼らない建物が増えており、私どもも何件も実現してきている。そういった考え方により、基準階の高さを揃えていく。1階について、同じ考え方で揃えてしまふと、駐車場からスロープが必要となるため、高さをあまり取りたくない。また、見通しを良くするために窓口部門は天井の高さがほしい。そこで、新館は現在の床の高さをそのまま使い、新庁舎は下がった地面に合わせて建てることとした。間に段差ができてしまふが、階段とスロープを設けることで、1階の天井高を確保するという考え方である。

一体化については、ご指摘のとおりである。新館を改修して使うことが、コストメリットや耐久性の面から考えてどうなのか、ということの基本設計で改めてもう一度皆さまからのご意見を頂戴し、我々も分析を進め、考えていかなければいけないと思っている。提案をする際にも悩んだが、一体化するために仮庁舎を造ると工事費が上がってしまふ、仮庁舎を造らず順番に建替えていくと工事費は下がるが工期が長くなってしまふ。実際のプロポーザルでは、新館の再利用が前提条件であったため、その条件の中で最善の方法を提案させていただいた。なので、機会を頂ければ、もう一度一体化との比較について練り直したい。

最後に、駐車場については、今の計画では周辺に緑地を確保するために、駐車スペースは小ぶりになっている。もっと1台あたりのスペースを広げたいということで、幅2m50cmで検討しているところである。これは今日、初公開である。また、松は現在位置のまま残したいと考えており、それは、市役所入口から入ると、まず松が迎え、議会棟があり、その奥に山の緑があるという関係を維持したいという思いがある。しかし、松の背面や周辺の緑地を少し削ることで、幅2m50cmで120台を確保できると考えている。幅2m50cmの実感としては、郊外のショッピングセンターやスーパーの駐車場に2本線が引いてあると思うが、その中で最も一般的な寸法である。もう一つ、一体化するともう少し庁舎をシェイプアップできると考えており、そうすると周辺に余裕ができると考えており、基本設計の早い段階で検討を済ませ、もう一度この場で皆さまからのご意見をいただきたいと考えている。

委員：議会棟の北東側に階段が見え、ここに深岩石を使うとのことだが、これはなにか機能するのか。

佐藤総合計画：この階段は、議場を市民利用する際に、敷地の北側を通って入れても良いなと思って設けた。また、議会棟から避難しやすいように設けているが、なければダメかと問われると、なくても良いかなと思っている。

委員：駐車場のG Lの上にまた通路があるのはパツとしないと感じてしまふ。

佐藤総合計画：駐車場全体のレイアウトと一緒に再度検討するため、またご意見を頂ければと思う。

委員：また、行政棟の屋根について、長さが半端ではないか。室外機置き場の屋根かもしれないが、新館は窓に雨が当たって漏水してしまう現状があり、得てして屋上の防水性不足が漏水の原因となることが多く、屋根の庇を伸ばしてはどうか。

佐藤総合計画：屋根の庇が短いとのことだが、これは屋根の雪が直接落下することを防ぐために短くしている。また、防水性については、最近の建物は性能が上がってきており、また、敢えて構造を単純にすることで修繕を簡単にできる方法もある。このようなことを考えつつ、防水については注意深く検討していきたい。新館の窓からの漏水については、今回の改修では窓を一旦外し、新たに付け替えて対策するしかないと考えている。そこにお金をかけるなら、一体化すれば良いじゃないかとの声が聞こえてきそうだが、その辺のコストメリットがどちらにあるか早急に検討していきたい。

委員：そこまでして改修するのであれば、また、将来減築が必要になるのであれば、プロポーザルの前提条件なので仕方がないと思うが、個人的にはいっそ全て新しく建てることを要望したい。

佐藤総合計画：補足であるが、将来減築すると申し上げたが、新館の耐久性もあることから、減築といっても建て替えでの減築にならざるを得ないと考えている。

委員：今後、建替えと一体化のコスト面などでの検討をされるということだが、使い勝手の面で、交流棟が奥になってしまっており、お祭りなどを考えると、神社側に交流棟があった方が参道との一体利用できるのではないかと。市民テラスは奥に造るより、参道から利用しやすいところに造った方が使い勝手が良いのではないかと。そういった面も含めて、今後の新館の再利用を考えていただきたい。

また、工事中に市民が参加できるようなイベント、例えばレリーフを市民が協同して移設する、杉などの木のタイルをネームプレートで募る等、市民と一緒に参加できるような仕組みを盛り込んでいただければ、市民を巻き込んでいけるのではないかと。ぜひ検討をお願いしたい。

佐藤総合計画：楽しそうな提案をありがとうございます。本音を言えば、ギャラリーをもう少し前に出したいが、その場合、建替え手順を考えると、新築の場合でも、仮庁舎が必要となってしまう、コストがかなり上がってしまう。しかし、市民が身近に使えるギャラリーは何とか表に出てくるように考えたい。また、一体化させれば、窓口周りももう少し伸び伸びできるかなと考えている。

また、工事中のイベントについては、ぜひやっていきたいと考えている。実際に下野市で、委員長にお世話になりながら、子どもたちや市民に参加していただきながら行った事例もあるので、皆様にご意見を頂きながら具体化していきたいと考えている。

委員：私は旧栗野町に住んでおり、当時木造で凄い校舎ができると言われた栗野中学校に、何年か務めていたのでお話をさせていただきたい。木造とはいえ、結局集成材が多く、鉄筋コンクリート造の壁くらいにしか使われず、がっかりした一人である。せっかく鹿沼に住んでいるので、鹿沼の材木で造ったんだなと市民が感じられるようなものを造っていただければと思う。よろしく願います。

佐藤総合計画：大きな建物になってしまうため、メインのフレームはどうしても集成材になってしまう。幸いにも、鹿沼市内で集成材を作っているのので、他市町に比べて、オール鹿沼で造れるのではと考えている。大断面が必要ない部材については、製材を使っていきたい。実際に、東京の山奥の日帰り温泉施設を、地元の木だけで、集成材を全く使わずに造っており、応用力はあると思うので、今後設計で考えていきたい。

委員：近年、鹿沼市ではゲリラ豪雨が多いが、対策等はあるのか。

佐藤総合計画：ゲリラ豪雨については、全体的に高いところにあるため、放水はしやすい。注意した点として、雨を排水する管のサイズを大きくし、箇所数を増やしている。このような屋根にすると、屋根の樋に雨が集中してしまうが、越流することがないように管を太くし、本数を増やすことで対策している。また、雨水枡から吹き出すことも考えられるので、ゲリラ豪雨が起きることを前提に対策を取っていきたいと考えている。

委員：(株)佐藤総合計画が選ばれた理由についてお伺いしたい。非常に良い提案だと思うが、改めて説明していただければと思う。

事務局：審査結果については、審査講評をご覧いただきたい。設計者選定審査委員会において、(株)佐藤総合計画の提案は、総合的に見て最も堅実であり、実現性について評価が高く、なにより鹿沼のことをよく調査していることが挙げられた。

委員：突拍子もない意見かもしれないが、先ほど若い方が交流館の意見を出していたが、そういった若い方の意見を重視すると、議会棟と交流棟の配置は逆の方が良いのではないかとと思うがどうか。

佐藤総合計画：まず、設計の立場から申し上げますと、考え方としてはある。そのため、議場の市民利用も考え、交流棟と繋いでいるものがこの案である。

事務局：事務局からの立場から申し上げますと、ご意見はごもっともだと思う。しかしながら、議場は空間が広く必要であり、新館を改修して議場を造るということは難しい。また、個人的にも、(株)佐藤総合計画の説明にもあったように、松と議会棟と御殿山の関係を崩したくないと考えている。そのような場所で、議会と市民が交流して頂くことが理想と考えており、そういった考えが広がっていくことを期待している。今後検討していく。

委員長：委員の皆さんから活発にご議論いただいた。今回の考え方として、新館の改修がプロポーザルの前提条件であるが、今後、全館建替えと検討する。一般的には、全館建替えの方が理想に近づくが、仮設庁舎が必要になる場合がある。仮設庁舎は建てる引越を2回する必要も出てきてしまい、これが結構費用が掛かってしまう。そのバランスを今後検討し、精査した上で、委員の皆さまにお諮りして決定していく。まだまだご意見はあるかと思うが、市民会議はこれで終わりではないので、今回はここで終了とさせていただきたい。

### (3) 今後のスケジュールなど

(事務局より説明)・・・『資料3』、『資料4』

- ・基本設計策定スケジュールについて説明
- ・ワークショップについて説明

(意見交換)

委員 長：「鹿沼市民」とはどこまでを対象とするのか。最近の事例では、栃木市や佐野市は、住民票の有無だけではなく、通勤や通学でも認めている。今回の対象はどのように考えているか。

事務局：通常は住民票の有無で判断すると思うが、他部局の事例も含めて相談し、決定してきたいと考えている。

委員：ワークショップとは具体的に何をどうするのか教えていただきたい。

委員 長：会議のように口頭で質疑応答するのではなく、建物のある程度出来上がった図面等を基に、意見をメモ等を書いていき、それを積み重ねていくことで、そのグループの意見を視覚的に捉えることができ、このように進めたらよいのではないかと、意見の方向性を打ち出すような場をワークショップと呼んでいる。

委員：要するにお互いが意見を出し合って、良いものに向かって盛り上げていくということか。

委員 長：そのとおり。誰がどういう意見を言った等、細かいことは気にせず、全体としてその作業を通してより良いものを皆で考えることにより、誰も考えていなかったような新しいアイデアが出てくることもある。そういったことを期待する場でもある。

委員：2回ほど開催するとのことだが、議題は毎回変わるのか。また議題は、事前に教えていただけなのか？事前に分かっていたら、より深く考えてくることができると思う。

事務局：資料についてはできる限り早めに送付させて頂く。特に、議題については、明確に示した上で、考慮するポイントなどを(株)佐藤総合計画と相談し、資料を作成したい。

その他特に意見なし。

⇒議事について、委員一同承認。

#### 4. その他

- ・特に意見なし。

#### 5. 閉会

- ・次回予定 第4回会議 4月中旬を予定している。

以上